


様式第7号（第5条関係）

視察結果報告書

東松山市議会議長

福田武彦様

会派名 市民クラブ

代表者名 関口武雄 

月日	視察地	視察内容
7月20日（土）	静岡科学館 る・く・る	静岡科学館る・く・るの取組について
		以上 視察に関し、別紙のとおり報告いたします。

## 令和元年度 市民クラブ行政視察報告書

視察場所 静岡科学館る・く・る（静岡市駿河区南町14番25号）

視察項目 静岡科学館る・く・るの取組について

視察者 岡村行雄、関口武雄、村田文一

視察目的 乳幼児から小中学生を中心に大人まで楽しめる静岡駅直結の都市型科学体験施設の概要・運営等を調査し、東松山市の住民要望やニーズと比較すべく取組状況を視察する。

対応者 静岡科学館る・く・る 館長 米澤昭美 様  
次長 谷 俊雄 様

### 静岡市勢の概要（平成31年4月1日現在）

・市制施行年月日	平成15年4月1日
・人口	702,395人
・世帯数	315,788世帯
・面積	1,411.83km <sup>2</sup>
・就業人口	第一次産業 9,054人 (2.6%) 第二次産業 88,388人 (25.2%) 第三次産業 238,357人 (67.9%) 分類不能 15,053人 (4.3%) 合計 350,852人 (100.0%)
・平成31年度当初予算	一般会計 318,000百万円 (内 議会費 1,039百万円) 特別会計(14会計) 229,510百万円 企業会計(3会計) 74,993百万円 合計 622,503百万円

### ■静岡科学館る・く・るについて

#### 1. 設立の経緯および現状

静岡科学館る・く・るは、前身である静岡市立児童会館の閉館に伴い、静岡駅南口駅前ビル（エスパティオ）につくられた。このビルは地上14階、地下1階からなり、静岡駅南口第二地区法定再開発事業として2003年12月に竣工した。このビルの8階から10階の3フロアをる・く・るが利用し、指定管理者である公益財団法人静岡市文化振興財団が開館当時から管理・運営を行っている。

展示内容は体験や実験を中心とした機材が設置され、子どもから大人まで楽しめるよう工夫されており、5年に1度ほどの頻度で目玉となる比較的大型の機材について入替えを行っている。

今年3月に開館15周年を迎え、来場者数はオープン以来延べ3,939,828人となった。平均年間来場者数は26万人を超えており、毎年多くの来館者が科学体験を楽しんでいる。交通手段は静岡駅とペデストリアンデッキで繋がっているため、電車での利用が便利である。自動車で訪れる場合は、専用駐車場が少なく、近くのコインパーキングを利用することになる。

## 2. 事業計画の理念

平成30年度から始まった第4期の指定管理期間において、より多くの市民に愛される魅力的な静岡科学館であり続けるため「科学館の設置目的」及び「基本理念」に沿って4つの「運営基本理念」を定めた。

- (1) 市民の科学への興味・関心を高め、科学的な思考習慣と創造力を育みます。
- (2) 「Hands-on 科学館」を軸とし、自然や科学の不思議を幅広い層の市民と共有します。
- (3) コミュニケーションを重視した事業活動で来館者の満足度を高めます。
- (4) 市民と共に科学普及の場を創造し、魅力ある多様な事業を展開します。

## 3. 事業方針

当科学館は平成16年の開館当初から全国に先駆け Hands-on 科学館として科学普及や科学の担い手育成に取り組み、その中で培ってきたノウハウや人的財産、外部団体との信頼関係など、これまでの実績を十分に活用しながら当館事業をさらに発展させるべく、以下の6項目を重点方針とする。

- (1) 魅力ある常設展示を維持し、効果的な展示体験を常に提供する。
- (2) 企画展や毎月行われるソフト事業など、充実した体験の場を提供する。
- (3) 科学的な気付きを促し、自発的な学びにつなげるオリジナルプログラムを継続的に提供する。
- (4) 職員の科学コミュニケーション能力を高め、来館者の科学館への期待に応える。
- (5) 地域の科学の発信拠点、連携拠点として積極的な情報発信と共に多様な文化施設・学校大学・企業等と連携を進める。
- (6) ボランティアや市民科学コミュニケーターの活躍の場を設け、市民とともに科学文化を創造する。

第4期より指定管理者業務仕様書に達成すべき数値目標が示され、この数値を達成するための運営をはかる。

- ・年間来館者数：25万5,000人
- ・連携事業回数：100回
- ・連携事業団体：静岡音楽館、静岡市美術館、静岡市民文化会館、静岡市生涯学習センター

## 4. 事業構成と具体的な取組

- (1) 展示体験支援事業
- (2) 科学への興味・関心を高める事業
- (3) 科学への理解を深める事業
- (4) 科学技術と科学文化の担い手育成事業
- (5) 地域との連携推進事業

- (6) 学校連携と研修支援事業
- (7) 事業マネジメント業務
- (8) 施設運営管理業務
- (9) 総事業費（備品等含む）：6,793,055 千円

#### 5. 今後の課題

- (1) 開館以来の展示物の更新計画
- (2) 事業予算編成にあたり、外的な資金獲得をどの程度行うか。
- (3) 社会的なニーズの変化と事業計画
  - ・プログラミング教育
  - ・ロボット技術、情報技術を展示物や事業にどのように反映するか。
  - ・来館者年齢の変化
  - ・静岡市周辺地域の人口減少

#### 所感

静岡市は人口で当市のおよそ7.8倍、予算で約10倍の政令指定都市であるが、ここでも少子高齢化の課題をかかえている。その状況の中で当館は様々な知恵と工夫を凝らしながら来館者が主役の施策を継続し、常に改善を心がけており職員の熱意が感じられた。

身体全体を使って不思議を体験する展示物や子どもの発想を広げる体験コーナー、科学館としては国内最大級を誇るイベントホールでのサイエンスショー、テーブルサイエンス、科学教室・工作等たくさんの催し物があり、さまざまな年齢層に対応した企画を考えていることが、開館以来来館者数の落ち込みが無いことに現れている。新規のみならずリピーターの方々にドキドキ感やワクワク感などを発信し続け、思い思いに創意・工夫しながら、遊び楽しむことができる様々な機会を提供している。更に、交通の便の良い都市型として静岡駅に直結した立地も大きな魅力である。

東松山市も今後人口減少が見込まれ、新たな箱物をつくることは難しい状況にあるが、今回、当館で学ばせていただいたように将来を見据え、現有する様々な施設を複合化し、コンパクトに収めることができるかどうかは今後の課題である。当市で令和元年にスタートした公共施設複合化等検討事業においても知恵と工夫に熱意を加え、最良の選択が整うよう期待する。

今回の視察は、市民クラブ、きらめきの2会派合同で実施。  
また、大内一郎議員は公務により欠席。

以上



会場入り口脇の歓迎スポット



米澤昭美館長のご挨拶



グルグル発電マシン



グルグル発電マシン



はらはらウォール



日本最大級のイベントホール



会派きらめきと「る・く・る」入口にて



地元企業の特設ブース